

平成24年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成24年2月3日

上場取引所 大

上場会社名 株式会社ゲオディノス  
 コード番号 4650 URL <http://www.geodinos.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 清水 松生

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理本部長 (氏名) 吉住 実

TEL 011-241-3951

四半期報告書提出予定日 平成24年2月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第3四半期の業績(平成23年4月1日～平成23年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第3四半期	6,157	△3.8	62	△54.6	△56	—	△114	—
23年3月期第3四半期	6,399	33.0	138	—	36	—	△15	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第3四半期	△26.92	—
23年3月期第3四半期	△3.61	—

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	円 銭
24年3月期第3四半期	10,423	—	2,324	—	22.3	—	545.03	—
23年3月期	10,246	—	2,426	—	23.7	—	569.40	—

(参考) 自己資本 24年3月期第3四半期 2,320百万円 23年3月期 2,424百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
23年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
24年3月期	—	0.00	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注)直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,800	1.6	310	3.1	130	△19.1	80	84.5	18.69

(注)直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 4. その他

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期3Q	4,303,500 株	23年3月期	4,303,500 株
② 期末自己株式数	24年3月期3Q	45,094 株	23年3月期	45,084 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期3Q	4,258,408 株	23年3月期3Q	4,283,434 株

#### ※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続を実施中です。

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、[添付資料]3ページ「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. サマリー情報（その他）に関する事項 .....	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要 .....	3
4. 四半期財務諸表 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	6
第3四半期累計期間 .....	6
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	7
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する定性的情報

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の影響等による厳しい状況から、サプライチェーンの立て直しが進むなど一部に持ち直しの動きがみられましたが、欧州の政府債務危機などを背景とした海外景気の下振れや雇用情勢の悪化懸念などにより、依然として厳しい状況で推移しました。

このような状況のなか、当社は、不採算店舗の閉鎖及び業種転換を実施する一方で、フィットネス、ゲームにおいては新規出店を実施しました。また、内部的には、新たに業務本部を設置、4事業部で構成されていた営業組織形態を、店舗運営に集中させ、より事業の専門性を高めるべく、5運営部に組織変更し、収益力の強化に取り組んでまいりました。

この結果、当第3四半期累計期間の売上高は61億57百万円（前年同四半期比3.8%減）、損益に関しては、GAME運営部において、主にゲオショップ内のゲームコーナーであるリトルパーク（以下、「LP」という）の出店増等により初期費用がかさみ、営業利益は62百万円（同54.6%減）、経常損失は56百万円（前年同四半期は経常利益36百万円）、四半期純損失は、閉鎖中の旭川市建物の解体費用引当金繰入額を計上し、1億14百万円（前年同四半期は四半期純損失15百万円）となりました。

当第3四半期累計期間における営業実績をセグメント別に示すと次のとおりであります。

セグメントの名称	当第3四半期累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	前年同四半期比 (%)
GAME運営部 (千円)	2,534,515	△6.4
フィットネス運営部 (千円)	1,570,413	5.9
ボウリング運営部 (千円)	897,885	△2.0
カフェ運営部 (千円)	496,408	△10.3
ディノス施設運営部 (千円)	658,020	△11.1
（シネマ） (千円)	(505,237)	(△18.1)
（その他） (千円)	(152,783)	(24.1)
合計 (千円)	6,157,244	△3.8

(注) 1. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

2. 平成23年6月1日付の組織変更に伴い、ディノス事業部のボウリング事業をボウリング運営部に、同じくシネマ事業及び土地・建物の賃貸収入等その他をディノス施設運営部に区分及び名称を変更しております。また、ディノス事業部の実質的にボウリング場の付帯施設的位置づけであったFA事業1店舗を除きボウリング運営部に変更しており、独立店舗的性格の強い1店舗をカフェ運営部に変更しております。前年同四半期比については、当該組織変更を反映した前年同四半期の数値を用いております。

3. ディノス施設運営部の（その他）は、土地・建物の賃貸収入等の売上であります。

4. ディノス施設運営部のセグメント内訳は、内部管理上採用している区分によっております。

#### (GAME運営部)

GAME運営部につきましては、「ゲオパークじょいくるーず店」（平成23年4月）の出店並びにLP出店増があり、また12月には映画、ボウリングからの回遊を促すBIG COUPON発行などの施策を実施しましたが、ゲーム機種のヒットが少なかったこと、並びに前年爆発的ヒットを記録した景品のあったプライスゲームの反動減などにより、売上高は25億34百万円（前年同四半期比6.4%減）となりました。

#### (フィットネス運営部)

フィットネス運営部につきましては、「ゲオフィットネス国立店」（平成23年5月グランドオープン）及び女性専用の「ホットヨガスタジオ ハーティ」（平成23年12月）がオープンし、店舗数が増えたこと、加圧トレーニングマシンの導入をしたことなどにより、売上高は15億70百万円（同5.9%増）となりました。

#### (ボウリング運営部)

ボウリング運営部につきましては、TVCMによる宣伝や一部店舗においてプライベートレーン（ボウラーズベンチを半個室化）のテスト設置などを実施しました。前半東日本大震災の発生に伴う自粛等の影響で多くの予約団体のキャンセルがあり、後半回復傾向にあるものの、震災影響による落ち込みを取り戻すまでには至らず、売上高は8億97百万円（同2.0%減）となりました。

(カフェ運営部)

カフェ運営部につきましては、1店舗が閉店(平成22年11月)したこと、業界全体の規制強化の影響等を受け、12月によりやく影響は落ち着いたものの、売上高は4億96百万円(同10.3%減)となりました。

(ディノス施設運営部)

ディノス施設運営部につきましては、その他において、当期及び前期にディノス札幌白石など3施設において一部スペースをカラオケ店もしくは事務所等として他社に賃貸するなどの業種転換を実施したことにより、不動産賃貸収入が増加しましたが、シネマにおいて、例年に比べメガヒットと呼ばれる作品が少なく、ここ数年を下回る水準で推移したこと、ディノスシネマ札幌白石を閉館(平成23年5月)したことなどにより、売上高は6億58百万円(同11.1%減)となりました。

(2) 財政状態に関する定性的情報

(資産、負債及び純資産の状況)

当第3四半期会計期間末の総資産は104億23百万円となり、前事業年度末に比べ1億77百万円増加しました。これは主に、現金及び預金等流動資産の増加(前期末比1億34百万円増)及びアミューズメント機器(純額)等有形固定資産の増加(同41百万円増)があったことによるものであります。

負債については、80億98百万円となり、前事業年度末に比べ2億79百万円増加しました。これは主に、1年以内返済予定の長期借入金等流動負債の増加(同1億30百万円増)及び社債等固定負債の増加(同1億48百万円増)があったことによるものであります。

純資産については、23億24百万円となり、前事業年度末に比べ1億1百万円減少しました。これは主に、利益剰余金の減少(同1億14百万円減)があったことによるものであります。

(3) 業績予想に関する定性的情報

平成24年3月期の業績予想につきましては、平成23年11月4日に公表いたしました業績予想に変更はございません。

2. サマリー情報(その他)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

4. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成23年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	767,655	844,336
売掛金	110,936	134,892
商品及び製品	28,173	32,206
原材料及び貯蔵品	73,347	89,968
その他	115,766	128,659
貸倒引当金	△635	△690
流動資産合計	1,095,244	1,229,373
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	3,623,455	3,547,619
アミューズメント機器（純額）	501,667	516,251
土地	2,699,860	2,699,860
その他（純額）	706,466	808,906
有形固定資産合計	7,531,449	7,572,638
無形固定資産		
投資その他の資産	31,038	29,626
差入保証金	1,205,942	1,209,140
その他	369,613	365,911
投資その他の資産合計	1,575,556	1,575,051
固定資産合計	9,138,045	9,177,315
繰延資産	12,879	16,940
資産合計	10,246,168	10,423,629
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	168,420	173,006
1年内償還予定の社債	155,000	188,000
1年内返済予定の長期借入金	1,136,763	1,231,774
1年内返済予定の長期未払金	324,943	360,846
未払法人税等	25,175	12,178
賞与引当金	38,994	19,313
ポイント引当金	4,300	3,700
店舗閉鎖損失引当金	3,804	1,100
建物解体費用引当金	—	27,380
その他	919,091	890,139
流動負債合計	2,776,492	2,907,438
固定負債		
社債	530,000	668,000
長期借入金	2,665,823	2,799,045
長期未払金	1,022,824	948,201
退職給付引当金	169,261	175,075
資産除去債務	112,698	114,557
その他	542,536	486,412
固定負債合計	5,043,143	5,191,292
負債合計	7,819,635	8,098,730

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成23年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	948,775	948,775
資本剰余金	1,128,995	1,128,995
利益剰余金	357,745	243,114
自己株式	△20,983	△20,987
株主資本合計	2,414,532	2,299,897
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	10,228	21,080
評価・換算差額等合計	10,228	21,080
新株予約権	1,773	3,920
純資産合計	2,426,533	2,324,899
負債純資産合計	10,246,168	10,423,629

(2) 四半期損益計算書  
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
売上高	6,399,244	6,157,244
売上原価	1,400,404	1,293,489
売上総利益	4,998,839	4,863,755
販売費及び一般管理費		
給料	1,167,938	1,195,193
賞与引当金繰入額	9,143	19,313
退職給付費用	18,520	15,967
水道光熱費	505,610	489,759
租税公課	81,864	61,479
地代家賃	934,641	947,338
減価償却費	563,121	549,710
修繕維持費	316,654	307,908
その他	1,263,132	1,214,395
販売費及び一般管理費合計	4,860,625	4,801,065
営業利益	138,214	62,689
営業外収益		
受取利息	2,967	2,896
受取配当金	1,888	1,820
アミューズメント機器売却益	1,113	2,577
協賛金収入	5,242	5,180
その他	7,352	8,676
営業外収益合計	18,565	21,151
営業外費用		
支払利息	105,068	97,557
アミューズメント機器処分損	6,350	5,236
休止固定資産関係費用	3,082	28,007
その他	5,653	9,577
営業外費用合計	120,154	140,379
経常利益又は経常損失(△)	36,624	△56,537
特別利益		
固定資産売却益	232	4
ポイント引当金戻入額	450	—
特別利益合計	682	4
特別損失		
固定資産売却損	3,211	1,950
固定資産除却損	10,565	2,997
店舗閉鎖損失	2,951	—
建物解体費用引当金繰入額	—	27,380
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	20,454	—
リース解約損	741	—
特別損失合計	37,924	32,328
税引前四半期純損失(△)	△617	△88,862
法人税、住民税及び事業税	23,759	24,205
法人税等調整額	△8,929	1,563
法人税等合計	14,829	25,768
四半期純損失(△)	△15,446	△114,630



(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。